

令和2年6月閉会中審査 文教委員会（令和2年6月9日）

教育長の所信表明に対する質疑

<質疑>

平松委員

I C T利用やE d t e c hの推進について伺いたい。先ほど、オンライン授業の可能性を感じているといった話や、大きな転換期と感じているということで、私も同意見である。また、所信表明にもあったが、A I、I o Tの進展の中で10年先を想像できない不透明な時代であっても、たくましく生きぬく力をつけてほしいという話もあった。その中でも、E d t e c hをどう活用していくかということは重要であると考えます。A I、I o Tが当たり前になっていく時代を生き抜くためには、子供たちがそれを活用する力がなければならない。情報活用能力というのは、新学習指導要領にも言語能力と同様に学習の基盤となる資質、能力と位置付けられている。また、ギフテッドであるとか、障害者の方であるとか不登校の方などの個別最適化にもしっかりと取り組んでいかなければならない。そういった中でも、I C Tは有用なもの、有効なもの、必須なものと考えている。先ほども、オンライン授業や県立高校の再編の話の中でI C Tをという話があったが、そういった個別の中で出てくるものもそうだが、I C T利用というものを総合的に県としてどのように進めていくのか、I C T人材をどのように育てていくのか非常に重要であり、そのためにも 埼玉県教育の中で、小学校も中学校もしっかりとベクトルをそろえて取り組んでいく必要があると考えている。そのためには、明確にE d t e c hやI C Tを推進していくというビジョンを教育長が示していくべきだと思っている。また、オンライン授業について、たけた

職員もいるので、そういった方々により推進していくという話があったが、一部の方に限って推進していくのではなく、教員の方々が必死になってICT利用を進めていく、そのためには全体を底上げし、担う人材を育成していくことが非常に重要であると思うが、教育長の思い、決意を伺う。

<答弁>

教育長

病気の子も病院に入院しながら、不登校の子も家にいながら、学校と同じ環境の中で勉ができるという、個別最適化された教育が一人一人に届けられること、もう一つは、広く世界に発信する、交流できるということ、この二つが同時に学校教育の中で実現できることが一気に進んだと思っている。折しも今年度から実施されている小学校の学習指導要領では、プログラミングが子供たちの学びの中に入ってきた。小さい頃からそういうものに慣れ親しんで、10年後どのようになっているか分からないと先ほど申し上げたが、それは逆に子供たちの前に多くのチャンスが広がっているということであるので、そういったことを積極的に取り組むことで、子供たちが未来を自分の手でつかんでいってほしいと思っている。全体の底上げということについてであるが、学校も最初は、授業の動画を撮ることやオンラインの授業など、不慣れであった。しかし、学校に聞いてみたところ、機材の設定等は若い教員が行い、年配の教員は遠巻きに見ていたという状況であったが、実際に授業動画を作成する際には、50分の授業を15分にコンパクトにまとめ、エッセンスだけを提供する動画を作るのはベテランの教員の方が、技量が高いとのことであった。年配の教員であっても、できるようにならなければならない、やらなければならないようになってきているので、そうなったことをしっかりと捉えて、オンライン教育や動画の配信など、子供たちに後れを取らないように、私たちが責任をもって、ICTを活用し技術、能力が身に付く

ようにしていきたいと考えている。